

全国の公立併設型中高一貫教育校の事例

(HPから独自に取りまとめ)

校名	概要	教育理念等	主な教育内容
千葉県立 千葉中学校 千葉高等学校	○募集人員(2022年度) 中学校 80名 高等学校 普通科 320名 ※内進を含む ○開校年度 中学校 2008年 高等学校 1878(明治11)年 ○中学校の志願者数・志願倍率 (2022年度) 600名 7.50倍	【教育理念】 ・千葉から、日本そして世界で活躍する心豊かな次世代のリーダーの育成 【教育目標】 ・高い知性：知的欲求に働きかけて不断に学び続ける自主性を伸ばし、揺るぎない学力を基礎とした幅広く深い教養を育成する。 ・豊かな人間性：多くの人びととふれ合い協同して互いに高め合う中で、他人のいたみのわかる、うるおいに満ちた人間性を育成する。 ・高い志：わが国の伝統や文化に対する深い理解と実社会への共感をもとに社会貢献の志を育み、自己を確立する基盤を育成する。	・バランスの良さが特徴で、受験学習に特化することなく、選択科目も厳選し、中学生が中学校の段階で学ぶべき教科をバランスよく深く学べるようになっている。例えば、らせん階段を上るように、段階的に繰り返して学習し、学年が上がるにしたがって、より高度な内容で学び直し、少しずつ理解を深めていく。(スパイラル学習) ・中高一貫の利点を生かすため、中学校本務の教員だけでなく、高等学校本務の教員による通常授業や特別な講座などがある。カリキュラムを早く進めるだけの先取りは行わないが、高校や大学レベルの内容も必要に応じて学ぶ。 ・お互いに切磋琢磨し、共鳴して高め合うという意味から、高校1年生から、内進生と外進生は、同じクラスになる。 ・学校設定科目「学びのリテラシ」で、話し合う力や発表の技術など、探究的な学びの基礎となる力を育てる。(アンケート調査、グループ発表等) ・総合的な学習の時間「ゼミ」で、一人一人がテーマをもって発表し、3年生では論文をまとめる。 ・年3回程度、千葉高のOB・OGを始めとした社会人を講師として招く。
千葉県立 東葛飾中学校 東葛飾高等学校	○募集人員(2022年度) 中学校 80名 高等学校 普通科 320名 (医歯薬コース設置) ※内進を含む ○開校年度 中学校 2016年 高等学校 1924(大正13)年 ○中学校の志願者数・志願倍率 (2022年度) 865名 10.81倍	【教育理念】 「揺るぎない学力」と「自己規律力」を高めることで、「学力」、「人間力」、「教養」とグローバル社会で活躍するための基礎を涵養し、6年間の一貫教育を通じて、生涯キャリアを見据えた「世界で活躍する心豊かな次世代のリーダー」を育成する。 ・確かな学力：基礎基本をしっかり身に付け、自ら考え問題解決できる資質や能力を育成 ・豊かな心：人や自然、文化とのかかわりを大切に、自らの視野を広げ、他人を思いやる心や感動する心を育成 ・健やかなからだ：心身の調和のとれた、健康・安全で活力ある生活を営む力を育成	・東葛飾高校の先生による授業がある。逆に、中学の先生が担当する高校の授業もある。 ・教科書に書いてあることを理解したら話し合っただけを考えを深め、深めたことを全体に発表するというサイクルで授業が3年間続く。 ・中学校での学習の深化と発展のために、高校での学習内容に触れることがよくあるが、高校の教科書を中学校のうちに終わらせるといった形での先取りは行わない。高校に進学したら、外部の中学校から入学してくる生徒と一緒に、高校の学習内容を最初から勉強する。 ・高校では、内進者と外進者が一緒のクラスになる。東葛中10名、他の中学校30名を組み合わせた40名のクラスを、8クラス編成する。 ・中学校・高等学校の希望者を対象にした、外部講師等による教養講座を実施する。
茨城県立 水戸第一中学校 水戸第一高等学校	○募集人員(2022年度) 中学校 80名 高等学校 普通科 240名 (医学コース設置) ※内進を含む ○開校年度 中学校 2021年 高等学校 1880(明治13)年 ○中学校の志願者数・志願倍率 (2022年度) 395名 4.94倍	【開校の主なねらい】 「生徒一人一人の夢や希望をかなえる学校」であり、「見通しをもって粘り強く取り組む力を身に付けるとともに、豊かな人間性を育み、地域や世界で活躍する人財」を育成していく 【育てたい生徒像】 ・自己の目標の実現を目指し、社会性と自己決定力を身に付け、様々な分野において、リーダーシップを発揮できる人財 ・グローバルな視点をもって茨城から世界に羽ばたく人財 ・高い志と使命感を兼ね備え、地域医療の発展に貢献する人財	・興味・関心を高め、深い学びを実現するため、60分授業を実施する。授業時間増の10分間で、発表や話し合い、生徒どうしで学び合う時間や「振り返りタイム」など、その授業で学んだことを深める時間として活用し、分かりやすく質の高い授業の展開を目指す。 ・外国人教諭による週1回のオールイングリッシュによる英語授業を少人数クラスで行い、英語コミュニケーションを高める。 ・ディベート学習をいろいろな場面で行い、批判的思考力を高める。 ・学習内容に合わせて、その内容と関連深い高校の学習内容等の一部を実施し、体系的な学習を通して、深い学びの実現を図る。 ・学級編成については、高校1年生までは別学級。高校2年生からは、地理歴史科と理科の選択による、緩やかな文理分けとなり、医学コースも設置されることから、混合学級となる。その際、数学では進度の差があることから、内進生と高入生とで別の授業を展開する。他の教科に関しては、授業の展開で内進生と高入生を分けないが、中学校で発展的に学んだ高校の内容を再び学ぶことによって、さらに理解を深めたり、そこから発展的な学習に広げられる。

校名	概要	教育理念等	主な教育内容
茨城県立 土浦第一中学校 土浦第一高等学校	○募集人員（2022年度） 中学校 80名 高等学校 普通科 240名 （医学コース設置） ※SGH指定 ※内進を含む ○開校年度 中学校 2021年 高等学校 1897（明治30）年 ○中学校の志願者数・志願倍率 （2022年度） 261名 3.26倍	【めざす学校像】 土浦一高のよき校風を継承・発展させ、「自主独立の気概に満ち、仲間との協同を尊び、自らの言動に責任のもてる」、グローバルな社会に貢献できるトップリーダーを育成する学校 【めざす人間像】 ・高い志を抱き、自ら考え判断し、責任をもって主体的に行動できる人 ・生命や人権を尊重し、他者と共に豊かな社会の創造に貢献できる人 ・社会の様々な場面や分野において、リーダーシップを発揮できる人	・60分授業のメリットを生かし、学習内容を生徒相互で振り返る時間を設定することにより、思考力・判断力・表現力の一層の強化を図る。 ・すべての教科において、自分の考えを英語で表現する活動などを取り入れ、年間を通して英語による発信をスキルアップしていく。 ・2年次に、高校での海外フィールドワークのステップとなる研修として、ブリティッシュヒルズでの2泊3日の英語づけ合宿を行う。3年次に、3年間の成果をICTを活用してまとめ、市内小中学校の生徒等にプレゼンをする。 ・原則として、教科書の配列どおりに早く進める形での先取り学習は行わない。中学校の学習内容を学ぶ際に、関連の深い高校の内容に触れながら学習を進めることで、新しい単元で学ぶ内容の理解が深まったり、生徒自身の構想や疑問に答えるきっかけにあたりするため、一部高校の内容に触れながら進める。 ・高校からの入学生は、附属中学生が既に学んでいる学習内容を、高校1年生のうちに履修して、進度調整を行い、高校2年生から、附属中生出身者80名と高入生160名を混合編制とする予定。
東京都立 両国中学校 両国高等学校	○募集人員（2022年度） 中学校 160名 高等学校 普通科 ※2022年度より高等学校からの募集を停止（2クラス→0クラス） ○開校年度 中学校 2006年 高等学校 1901（明治34）年 ○中学校の志願者数・志願倍率 （2022年度） 781名 4.88倍	【教育目標】 自律自修の精神に基づき、真理と正義を愛し、広く深い教養を身に付け、心身ともに健康で明朗な生徒を育成する。 【目指すべき生徒の将来像】 ・自らの未来を切り拓く意欲と行動力を持ち、リーダーとして活躍できる生徒。 ・広く深い教養と知性を身につけ、社会に貢献しようとする高い志と使命感をもった生徒。 ・健やかな心と体を持ち、世界的視野をもって国際社会で活躍できる生徒。	・「授業を大切に」を基本方針として指導し、先生による指導や充実した補習と家庭学習の徹底により、基礎をしっかりと固める。 ・将来、職業を通して社会に貢献する高い志と、使命感を身に付けて欲しいことから、中学校の「職場体験」や「卒業研究」、高校で行う「探究活動」などの学習を「志（こころざし）学」として位置付け、6年間を見通したキャリア教育に取り組んでいる。 ・日本人と外国人講師による協働授業が行われ、いつでも生の英語に触れる機会があり、6年間の中で全員が必ず英語ディベートに挑戦する。 ・すべての教科で、グループ活動やスピーチ、プレゼンテーションなどを用いて、対話的な学びを通じた言語能力の育成を行っている。 ・数学教育では、答えに至る過程を重視した授業を行い、数式を羅列するだけでなく、論理的に表現することを重視した指導を行っている。 理科教育では、実験・観察を重視し、実体験に則して科学的思考力を養成している。中学校においても、分野別に専門の教員が授業を担当し、発展的な内容を扱うことで、高校理科との接続を円滑にしている。
京都府立 洛北中学校 洛北高等学校	○募集人員（2022年度） 中学校 80名 高等学校 ※SSH指定 ・サイエンス科 80名 中高一貫コース（内進者） ・普通科 200名 文理コース 160名・スポーツ総合専攻 40名（外進者） ○開校年度 中学校 2004年 高等学校 1870（明治3）年 ○中学校の志願者数・志願倍率 （2022年度） 268名 3.35倍	【中高一貫教育の理念】 未来を切り拓く強い意志、高い知性、豊かな感性を持つ人間の育成 【中高一貫教育で目指す生徒像】 ・世界に羽ばたく大きな志を持った生徒 ・知的バランスのとれた生徒 ・心豊かで、礼節をわきまえた生徒	・3人（京都大学教授）の学術顧問に指導・助言をいただきながら、高水準の多様な教育を丁寧に展開する。 ・7限授業など豊富な授業時間数を活用し、国・社・数・理・英の5教科では、高校学習内容について、基礎期（中学1年生から中学2年生まで）から部分的に学び始め、充実期となる中学3年生からは、より本格的に高校の学習内容に即した学びを展開する。 ・国・社・数・理・英の5教科で、80人を3つの講座に分け、26～27人の少人数授業を行う。一人一人のきめ細やかな指導により、基礎・基本の徹底と学力の向上を図る。また、保健体育でも一部、少人数授業を行い、体力の向上を図る。 ・附属中学校もSSH指定の一貫として研究・実践を進めている。 ・洛北中・高の中高一貫教育の基本コンセプトである「サイエンス」に沿った教育活動の一つとして、独自教科「洛北サイエンス」がある。本物との出会いをテーマに、大学や企業等から講師を招いて行う特別授業や校外学習などを行い、通常の授業では得られない機会となっている。 ・中学3年は、オーストラリアのケアンズへの研修旅行を実施する。豊富な英語学習で、研修旅行実施までに英検準2級の取得を目指すこと、「総合的な学習の時間」で世界自然遺産を学習すること、「洛北サイエンス」で南半球の自然を学習することなど、3年間の計画的な学習への取組が基本となる。

校名	概要	教育理念等	主な教育内容
大阪府立 水都国際中学校 水都国際高等学校 ※2021年度まで 大阪府立、2022 年度に府に移管	○募集人員（2022年度） 中学校 80名 高等学校 グローバル探究科 160名 ※国際バカロレア・中等教育 プログラム ※内進を含む ○開校年度 中学校 2019年 高等学校 2019（平成31）年 ○中学校の志願者数・志願倍率 （2022年度） 364名 4.55倍	【教育目標】 ・社会に貢献する協創力をみがく 【学校理念】 ・ENCOURAGE：生徒や教員が新しいことに挑戦し続けられるようサポートする。自分自身を成長させ、生涯を通して学び続ける素地を養うために、失敗も成功も奨励する。 ・ENGAGE：生徒の興味関心を惹き、生徒自身が中心となって主体的に関わることができる、充実した創造的なプログラムを通して、学術的な専門性と国際社会で活躍できる資質・能力を獲得する。 ・EMPOWER：様々な事象を批判的に思考する方法、意思決定する方法、チームで協働する方法を学ぶ。生徒と教員は、世界に向け、グローバルな環境下で自信を持って行動する。	・英語ネイティブ教員による実践的な英語教育を実施している。 ・英語・数学・理科・グローバルスタディ（国際理解）の各教科において、週14～15時間の英語を用いた授業を実施している。 「グローバルスタディーズ（国際理解）」：多様な価値観を理解するのに必要となる知識や学力を身に付けるとともに、国際理解教育を行う。（英語を用いた授業） ・自ら課題を発見し、解決することを目的とした課題探究型授業を多く実施している。 ・高等学校の学習内容の先取り学習を実施している。 ・「コミュニティ&アクション」：様々な地域活動やボランティア活動について知識を学び、実際に活動実践も行う。地域、行政、NGOなどで活躍している方をゲストスピーカーとして招き、活動紹介やワークショップを実施する。 ※国家戦略特区制度を活用した全国初の公設民営による併設型中高一貫教育校 （管理・運営 学校法人YMCA）
和歌山県立 桐蔭中学校 桐蔭高等学校	○募集人員（2022年度） 中学校 80名 高等学校 普通科 280名 ※SSHに過去指定 ※内進を含む ○開校年度 中学校 2007年 高等学校 1879（明治12）年 ○中学校の志願者数・志願倍率 （2022年度） 247名 3.09倍	【教育指針】 ・自ら人生を切り拓く力を育てる ・改革への情熱と伝統を重んじる心を育てる	・週あたり50分授業32コマの豊富な学習量をもとに、基礎・基本を確実に定着させ、学習内容を深化・発展させる。 ・教科の枠を超えた特色ある学習内容により、生活と結び付けて深く学習させたり、新たな発想や視点を持つ力を養ったりするなど、知的好奇心や目的意識をもたせ、表現力、洞察力、論理的思考力、創造力等を育成する。「科学」「国語」「表現」の3領域の設定により、意欲的に学習できる独自の教科である。 ・学校周辺にある県立図書館、博物館・美術館等、様々な学びの環境を有効に活用し、本物の学びを体験する。 ・国内外の名門大学で学ぶ留学生との交流を通して、多様な価値観を学び、グローバル社会で人生を切り拓く力を身に付けるエンパワーメントプログラムの導入を検討中。 ・中高一貫した学習をより効果的なものにするため、中highにわたって学習内容を精選し、無理や無駄のない6年間となるよう工夫を図っている。そのため、中学校においては学習指導要領の範囲内で学習するが、発展的に高校の学習内容の一部を取り入れることがある。
広島県立 広島叡智学園中学校 広島叡智学園高等学校	○募集人員（2022年度） 中学校 40名 高等学校 普通科 80名 ※国際バカロレア・中等教育 プログラム ※内進を含む ○開校年度 中学校 2018年 高等学校 2022（令和4）年 ※全寮制 ○中学校の志願者数・志願倍率 （2022年度） 312名 志願倍率 7.80倍	【ミッション】 ・学びを通じて平和な社会づくりを実現し続ける存在となることを目指す。 【ビジョン】 ・社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても地域や世界の「よりよい未来」を創造できるリーダーを育成する。 ・「学びの変革」の目指すべきモデルとなる。 【ビジョン】 ・「グローバルな視野」と「地域に根ざした心」の双方を大切にし、主体的に学び続ける「ラーニングコミュニティ」を形成する。	・入学時の中学1年生から卒業するまでの間に、在籍する全ての生徒が一貫したIBの教育プログラム（MYPとDP）を履修するのは、日本の公立学校で初。 ・実社会の課題解決に挑戦する国際協働型プロジェクト学習 生徒一人一人が主役（先生はファシリテーター）となって、山・海に囲まれた自然環境や、そこで暮らす地域の人から様々なことを学ぶ。（専門家によるワークショップ、フィールドワーク、インタビュー、大人と交渉・調整等） ・生きた英語力の育成 リスニングを中心としたインプットと、英語でコミュニケーションをとることのできる雰囲気を作る。英語力の向上を目標としながら、少しずつ探究的な活動へとつなげていく。 海外にいる講師とマンツーマンで英会話をし、日常会話からアカデミックなトピックについて、コミュニケーションを取る。 日常会話表現だけでなく、英語で議論したり、論文を書いたりするアカデミックな英語力を育成する。 ・寮では、留学生を含む異年齢・多国籍の集団を構成し、共同生活を送る。高1のリーダー、中3のサブリーダーが中心となって、後輩の支援や指導を行う。